

日本分析化学会高分子分析研究懇談会
会員各位

高分子分析研究懇談会
委員長 寺町 信哉

第 320 回例会および総会開催のご案内

第 320 回例会および総会を下記の通り開催いたしますので、万障繰り合わせの上ご出席下さいませようお願い申し上げます。

記

日時 2003 年 10 月 2 日 (木) 13 時 30 分～17 時 00 分

場所 簡易保険会館「ゆうぼうと」(03-3490-5111, JR 山手線五反田駅下車徒歩 5 分)
会場案内図 <http://www.u-port.kfj.go.jp/accs/accs.html>

講演・ワークショップ 13:30～17:00

1. 講演1.(13:30～14:30)「界面活性剤の分析」 花王 構造解析センター 小池 亮
界面活性剤は、疎水基や親水基に分布を持った複雑な混合物で、その分析は難しい場合が多い。今回は、HPLC による界面活性剤の一斉分析及び LC/MS による高感度・詳細分析について、更に、絶対量測定が可能な内部標準を用いた H-NMR 法を界面活性剤の分析に応用した場合の有用性(標準化合物不要・高精度・迅速・一斉分析)について紹介する。

2. ワークショップ1(14:40-15:10)「薄層クロマトグラフ法を応用したフライ油の劣化度測定法」 住友スリーエム(株) 畑中秀之

フライ油の劣化度を把握するための評価方法には酸価、カルボニル価、発煙点など様々なものがあるが、日本のフライ現場では測定の簡便さから酸価による管理が一般的である。しかしながら、フライ油の劣化は酸化、加水分解、熱重合などにより複雑に進むため、酸価のみの管理では必ずしも十分とは言えない。他方、EU 諸国では、フライ油の管理は劣化物全体をあらゆる極性化合物量や重合物量で行うのが一般的である。フライ油中の極性化合物の定量法は、ISO や基準油脂分析試験法においてカラムクロマトグラフ法によるものが定められているが、煩雑な作業を伴うため現場レベルでは行われていない。今回、現場レベルで簡便に極性化合物の定量を行い、フライ油の劣化度を評価できる薄層クロマトグラフ法を応用した測定法について紹介する。

3. ワークショップ2(15:20-15:50)「発泡体のVOC評価について」

積水化成品工業株式会社 尾崎益教

近年のシックハウス問題によりVOC放散速度測定データ提出の要望が多くなりました。今回この分野では一般的でない装置を工夫してのJIS法評価の確立と種々の条件での発泡スチロールVOC放散試験結果について報告します。

4. 講演2(16:00-17:00)「IRマッピング用ATRの開発と応用」

豊田中央研究所 江崎泰雄

試料上の組成分布・組織分析に有力な手段としてIRマッピングが注目されている。表面分析に有効なATR(全反射測定)マッピングの概況に触れると共に、独自のATR結晶の開発経緯、特徴、応用例を紹介する。

申込方法 参加希望者は、別紙の参加申込書にご記入のうえ、FAX又はEメールによりお申し込みください。

申込先 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304号
社団法人 日本分析化学会 高分子分析研究懇談会
[電話：03-3490-3351, FAX：03-3490-3572, E-mail:ktanaka@jsac.or.jp]